

EVENT

2024年 東海地区  
世界フェアトレード・デー・イベント

名古屋 5/4(土)	世界フェアトレードの旅 みんなで世界地図をつくろう! 場所 ヒサヤオドリパーク / 時間 10:00~18:00
いなべ 5/11(土)	いなべ市内のフェアトレードお店巡りスタンプラリー 場所 にぎわいの森 / マルシェ 10:00~15:00 ノルディックウォーキング・FTトーク 11:00~
垂井町 5/19(日)	垂井のまちなかで、フェアトレードに出会える 場所 朝倉運動公園 自由広場 / 時間 10:00~16:00
浜松 5/26(日)	フェアトレードマーケット2024 場所 佐鳴湖公園花見台 / 時間 10:00~15:00

5月は「フェアトレード月間」



全国規模でフェアトレードに関する「商品購入」「SNS投稿」「イベント参加」などで合計250万アクションを目指す「ミリオンアクションキャンペーン」開催

2024年のキャンペーンテーマは「気候変動×自分事化」。もしも30年先の未来で、コーヒーが飲めなくなったら? チョコレートが食べられなくなったら? コットンの服が着られなくなったら?

そんな「もしも」の危機にフェアトレードで立ち向かいます。今なら、選べる。一緒なら、変えられる。わたしの、世界の、フェアな未来。

詳しくはこちら

公益財団法人 日中友好会館の研修活動に協力

中国の学生たち30名が「持続可能な社会」をテーマにし、関連のある「フェアトレード」の考え方を学び、事業者のお話を聞き、フェアトレード商品を販売している現場を視察し、購入体験を得るために名古屋市を訪問。3/5は名古屋市の取組みを学び、3/6はFTNNとともに名古屋市内の2店舗を訪ね、実際の商品を視察・購入を通じて日本語学習者である学生たちは会話を楽しみながら、積極的に名古屋滞在を楽しんだようです。



会員紹介：新店舗オープンしました！

新店舗オープンで、フェアトレードをより日常的にし、息の長いものにする2店舗

2023年8月OPEN

フェアトレード珈琲院

名古屋市西区、地下鉄庄内通駅から徒歩1分  
7:30~20:00 ㊿火曜日・第3日曜日 ☎052-938-4851  
www.fairtrade-coffeein.com

フェアトレードの考え方を大切にし、お店で提供するドリンクや食事を通じて世界中の生産者とのつながりが感じられるカフェ。自慢の押しコーヒーは店主のオリジナルブレンド、フェアトレードの「庄内ブレンド」。豊かなコクが楽しめます。食事も地産地消のものに加え、愛知商業高校ユネスコクラブの「徳川はちみつ」にフェアトレードのマスコバド糖で煮込んだ、自家製とろ焼豚丼が絶品です。



2023年10月OPEN

FARMERS PASSION COFFEE (ファーマーズ・パッション・コーヒー)

名古屋市名東区、地下鉄一社駅から徒歩3分  
8:30~18:00 ㊿不定休 ☎052-784-4576  
https://farmers-passion.com

ネパールで「アグロフォレストリー」という森林農法によって育てられたコーヒーを焙煎し、提供してきた豊川市の自社店舗モルカフェに次いで、2店舗目となるこの店舗は、美味しいコーヒーを提供したいと願う店主が「コーヒーの森を丸ごと味わう」という合言葉によって、その土地が持つ個性を活かし、コーヒーはもちろん、一緒に育てた作物もオーガニックの各種スパイスが代表的食材。基本はカフェで美味しいコーヒーをいただけます。それだけでなく、秀逸なカレーも目立ちます。特に野菜トッピングのカレーは色彩的にも森をイメージでき視覚的にも美味。スイーツのタルトも見逃せません。



NPO法人フェアトレード名古屋ネットワーク (FTNN) 会員募集中！

「地球とのフェアトレード」つながろう！地域と世界、今と未来！  
フェアトレードタウンなごやでは「地球とのフェアトレード」をテーマに、フェアトレードの理念を国際協力から広げて、身近な地域の課題解決にも繋げ、さらに地球規模で自然環境を守る活動にもつなげています。  
～世界に優しく、地域に楽しく、自分に美しく～  
活動をサポートしていただける会員さんを大募集です！

入会はこちらから FTNN 検索

年会費

個人正会員 ¥3000～ / 団体正会員 ¥6000～  
個人賛助会員 ¥1000～ / 団体賛助 ¥10000～



モノとココロを考える、  
フェアトレードタウンなごやのフリーペーパー「惣」

# 惣

S O U

第15号  
TAKE FREE  
2024年5月発行



## 生物多様性がつなげる伝統産業 生物多様性からの恵みを活かす フェアトレードと伝統産業

### フェアトレードタウンは暮らしの中で生物多様性の力を考えます

フェアトレードタウンなごやは「地球とのフェアトレード～地域と世界を、今と未来をつなぐ～」を合言葉に、「世界」に対しても、「地域」に対しても、「地球」に対してもフェアであることを目指しています。この合言葉は、地球上に生きるすべての生物のための約束でもあります。

現在、生物多様性が危機的状態にあるとして、これまでは環境に配慮する形で生物多様性の損失について語られることが多かったのですが、近年はその方向性を変え積極的に関わり、自然や生物多様性の損失に歯止めをかけ、むしろ環境にとってポジティブ(プラスの状態)にしていくことを意味する「ネイチャーポジティブ」という言葉が使われ始めました。

2023年10月28日、ネイチャーポジティブの実現に向けた意欲を表明する「なごやネイチャーポジティブ宣言」を市長が行いました。政令市としては初の宣言となりました。

フェアトレードタウンなごやは、今一度フェアトレードと生物多様性との関連性に注目し、その意味・意義を皆さんと共有したいと思っています。これまでフェアトレードとされてきたものには伝統産業と生物多様性との結びつきが強いことに注目し、先人たちが創り上げてきたものについて考えます。

フェアトレードの取引では、限りある地球上の自然から、持続可能な方法で自然素材を調達し、人々がその恵みを活かして、暮らしに必要なものを作り、売り、人々の生活を向上させています。その天然の資源は地球上の人々に平等に与えられているものであるということ。

### フェアトレードとは

開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」をいいます。フェアトレードはSDGsの「人と国の不平等をなくそう」(目標10)、「作る責任、使う責任」(目標12)などの目標と重なります。

### 生物多様性とは

地球上のすべての生きものが、長い歴史の中で環境に適応し、豊かな個性がつながり支え合うことを「生物多様性」といいます。この条約は1993年にでき、日本はその年に条約締結。生態系・種・遺伝子でとらえた多様性を守り、生物資源を持続可能に利用し、そこから得た利益を公正に配分しようという取り決めです。

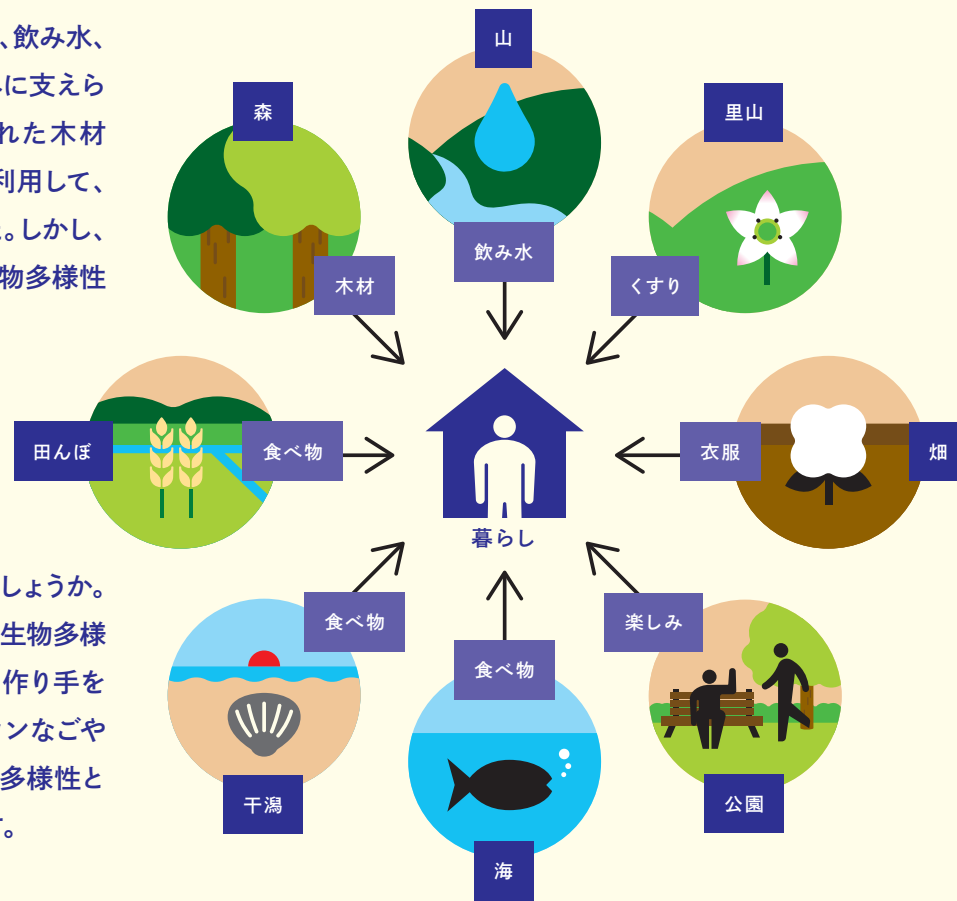


# 生物多様性と私たちの暮らしのつながり

私たちの暮らしは、昔から、食べ物や衣服、飲み水、くすりなど、生きものからもたらされる恵みに支えられてきました。名古屋では、木曾で伐られた木材など、周辺地域から得られる自然資源を利用して、さまざまな伝統文化や産業が生まれました。しかし、私たちの人間の生活によって、現在その生物多様性が危機に瀕しています。

- (例)
- 資源の過剰利用(乱獲など)
  - 森林など生きものすまかの減少(都市化の進行など)
  - 外来生物の増加
  - 気候変動

生物多様性を守るためにできることは何でしょうか。そのひとつが、買い物。多くの商品の中から生物多様性に貢献するものを選び製造する企業や作り手を支援していくことです。フェアトレードタウンなごやは、フェアトレードの考え方をもち、生物多様性とのつながりの深い伝統産業を応援しています。



『名古屋の伝統産業と自然の恵み』から <https://www.city.nagoya.jp/kankyo/cmsfiles/contents/0000149/149236/sassi.pdf>

## 伝統産業は環境にやさしい産業

- 多くの伝統工芸品は、竹や木、花などの生きものからもたらされる恵みを活かして作られています。
- 伝統工芸品の製造はほとんどが手作業のため、工業製品と比べて多くのエネルギー資源を使いません。
- 伝統工芸品の多くは修理を繰り返しながら長く使うことができますようになっています。
- また修理できるようにすることで、自然資源を使いすぎないようにしています。

### 伝統産業とは

伝統的な技術と技法で、日本だけでなく、世界のさまざまな地域の文化や生活に結びついている製品などを作り出す産業のことです。例えば名古屋は尾張藩の城下町として栄える中で、高い技術を要する数多くの伝統産業が育ちました。

1. 主として日常生活の用に供されるもの
2. 製造過程の主要部分が手作業的
3. 伝統的(江戸時代以前の歴史がある)な技術又は技法により製造されるもの
4. 主たる原材料が伝統的に使用されてきたもの

### ネイチャーポジティブとは

「ネイチャーポジティブ」は自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させることと定義される、生物多様性の新たな世界目標です。日本の生物多様性国家戦略においても、2030年に向けた目標として位置づけられ、世界の新たな潮流となっています。

## ポスト2020 物多様性条約～その動きと検討のプロセス



## 「生物多様性×伝統」を再現させたショップ

これら内容は「ethical ing」の他、各ショップのwebサイトを参考に再構成し、まとめました。

### SHOP 01 KURATA PEPPER (クラタペッパー)

Webサイト <https://kuratapepper.jp>



中世から1960年代まで、カンボジアの胡椒は「世界一美味しい」と言われていました。1970年代にカンボジアで始まった内戦を潜り抜けて、辛うじて残った3本の原木によって、その胡椒をもう一度「世界一」と呼ばれるよう、古の時代よりカンボジアの農家に先祖代々伝わる伝統的な農法にこだわり、1997年よりカルダモン山脈の麓で現地の人々とともに栽培を始めました。カンボジアの首都プノンペンより西部、その原木から家庭菜園ほどの胡椒畑を作っている農家の人がいました。クラタペッパー代表 倉田浩伸さんは、その農家の胡椒畑を基に地元の人々と共に農園を拡張、今では6ヘクタールの耕地で栽培しています。その味は地元の

方にも、旅行者のカンボジア土産としても大人気です。カンボジア産胡椒の生産量は世界第13位(2018年)まで増え、世界一美味しい胡椒は再び世界に広がっています。カンボジアの伝統農法は700年以上も続いてきたもの。農業や化学肥料を使わず、土壌の質、牛から得られる堆肥で行われる農法です。倉田さんは「安全で高品質な胡椒を生産する」という想いから、伝統農法を選択。クラタペッパーは、2011年にカンボジアでは初のヨーロッパ同規格のカンボジア・オーガニック協会から認証されました。胡椒は、果実のように房に実をつけます。その房の中から1〜2粒ほどが赤く熟したら、収穫の合図。通常は緑色の状態で摘み取ります。クラタペッパーでは最初に真っ赤に熟した実だけを1粒ずつ手摘みし、それを「完熟胡椒」と名付け商品化しています。赤く熟したタイミングで一粒ずつ手摘みした胡椒の実、そのまま「天日干し」の工程へ。カンボジアの照りつけるような日光で5日間 天日乾燥を行い、そうすることで旨味や香りが凝縮されるのだそうです。天日干しは雨季を避けて行われますが、夜の間は干せないで、日が落ちると取り込み、また次の日に干す、という大変な作業の繰り返しです。その後、現地スタッフが丁寧に目視で選別していくことで、一粒一粒が宝石のようなクラタペッパーの胡椒が出来上がります。このような昔ながらの工程には「地域の人たちが1年を通して働ける場をつくりたい」という倉田さんの創業時からの想いも関係しています。繁忙期である収穫シーズンが終わっても雇っている人たちの仕事がなくなるように。そんな倉田さんの熱く、暖かい心がこの胡椒には込められているのです。

### SHOP 02 NIMAI NITAI (ニマイニタイ)

Webサイト <https://nimai-nitai.jp>



インドでは、手つむぎ・手織りによって作られてきた生地を総称してカディと呼びます。インドはイギリスの植民地時代、マハトマ・ガンジーが独立のため「自らの衣服は自らで作る」という信念のもと、イギリス製の機械織り製品に対して「スワラージ(国内品愛用)」を唱えたことがきっかけで、独立を果たしました。インド職人の手仕事で紡ぎ織られた天然繊維の布地を植物由来の染料で染色した美しい布を、インドのテーラーにより仕立て上げ、「ひとりの人と出会うように、ひとつのモノに出会う」をスローガンに、NIMAI NITAIというブランド名で作り手の顔が見える丁寧なモノづくりと、買い物手に喜んでいただける質の高いファッションを目指しています。手仕事で

作られる美しいインド伝統の布と、その布で仕立てられるモダンな洋服、素材の質、満足いただける着心地によって商品の販路は広がりました。インド各地で継承されている伝統を生かそうと、手つむぎ・手織り・手染め・手刺繍、糸から染織・縫製まで、インドの女性たちと職人たちの手仕事で行われています。生地は、インドのコットン・リネン・シルクを使用。オーガニックコットンは、タミルナードゥ州で生産されたコットンを西ベンガル地域の職人が織り出し、リネンやシルクは、ビハール州バガルプール地方やナワダ地方の伝統的な製法で紡ぎ出されています。染料にはターメリックやインド藍など、植物由来の素材を使用し、インド伝統の木版で手押しするブロックプリント柄を染色しています。大学生最後の冬休みにインドの最貧困州の一つビハール州のブダガヤへ行き、この地域の貧困に衝撃を受けたという廣中桃子さん、その出会いがきっかけで2009年に合同会社ニマイ・ニタイ(nimai-nitai)を設立。村の女性たちの「裁縫を習いたい」という声をきっかけに起業した2012年以降、裁縫の指導・制作を開始。その後インドでの洋服作りも軌道に乗り、2016年には首都デリーで服仕立て職人の夫妻と共に2拠点目となる縫製工房を設立。日本では近江商人の経営哲学として広く知られる「三方よし」にちなんで滋賀・近江八幡に事務所を構える。「インド最貧困といわれるビハール州ブダガヤの雇用作りを原点に、その地に暮らす村人や仕事を営む職人と向き合い、働く環境や賃金にも双方が納得した上でモノづくりを極めていけること」を大事にしています。

## フェアトレードタウン ⇄ SDGs

2015年、街ぐるみで推進活動をする「フェアトレードタウン」に認定された名古屋市では、「フェアトレードは、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、生産者や労働者の生活改善と自立を目指すこと」が理念で、環境・貧困・人権・平和・開発など地球規模の課題解決に貢献するとともに、わたしたちの暮らしを見つめ直し、交流の促進や賑わいの創出にもつながるものと考えます。市民一人ひとりの買物を通じて、「地球とのフェアトレード」により、まちぐるみでフェアトレードを推進し、地域の絆を深めます」と宣言し、市民が地域や企業・行政を巻き込んだ先進的なフェアトレード活動を展開してきました。その内容は「ずっと地球に住み続けられるように開発・発展する」SDGs(持続可能な開発目標)17の目標のほぼ全てに関係しています。

